

審査の結果の要旨

氏名 佐藤 三穂

本研究は、職業を持つ2型糖尿病患者の療養に影響を与える職場要因をセルフケア、心理的 well-being、perceived positive change (PPC) との関連から明らかにすることを目的として、面接調査及び配票調査を実施した。職業を持つ2型糖尿病患者 25 名を対象とした面接調査では、糖尿病の療養に影響を与える職場要因を患者の語りから記述的に明らかにし、職業を持つ2型糖尿病患者 121 名を対象とした配票調査では、面接調査で明らかとなった職場要因がセルフケア、心理的 well-being、PPC にどのような影響を与えるのかを定量的に検討しており、以下の結果を得ている。

1. 面接調査の結果、療養に影響を与える職場要因として、「仕事の負担が強い」、「自由裁量度が低い」、「付き合いや接待が多い」、「仕事や仕事上の付き合いが予定外に入る」、「夜勤がある」、「仕事の内容が変わる」という「仕事や職場の環境要因に関するもの」に分類される要因と、「職場で公表する」、「周囲の目や関係性を割り切って考える」、「病気について話せる人や、経験を共有できる人がいる」、「仕事には支障を与えていないと思える」という「仕事や職場への本人の関わり方に関するもの」に分類される要因が明らかとなった。
2. 面接調査で明らかとなった職場要因とセルフケア、心理的 well-being、PPC との関連について、セルフケアの指標として「食事セルフケア行動」、「運動セルフケア行動」、「自己効力感」、心理的 well-being の指標として「抑うつ」、「情緒的ディストレス」、そして「PPC」を従属変数とした重回帰分析を用いて検証した結果、職場要因は、各重回帰分析のモデルに対して中等度の説明力を持っていた。自由裁量度が高い人ほど情緒的ディストレスが低く、夜勤が多い人ほど食事セルフケアの実施程度が低く、PPC が低いという結果であった。職場で公表している人ほど、食事セルフケアを実施しており、自己効力感が高く、PPC が高いという結果であった。周囲の目や関係性を気にして職

場への同調性が高い人ほど、食事セルフケアの実施程度が低く、自己効力感が低いという結果であった。職場で糖尿病の治療や健康管理の仕方について相談できる人がいる人ほど、情緒的ディストレスが低く、PPCが高いという結果であった。糖尿病による仕事への影響を感じている人ほど、抑うつが高く、情緒的ディストレスが高く、自己効力感が低いという結果であった。

以上、本論文は職業を持つ2型糖尿病患者の療養に影響を与える職場要因が先行研究で示されているものより多岐に渡っていることを示した。そしてそれぞれの職場要因が与える影響をセルフケア、心理的 well-being、PPC という療養を構成する3つの側面との関連から検証することで、各職場要因の特徴を多面的に明らかにし、2型糖尿病患者の療養生活を理解する上で職場要因に着目する重要性を示した。本論文は、2型糖尿病患者の療養生活の理解を深め、支援を考案する上で重要な貢献を果たすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。